

- ム（2018年3月28-29日）を千葉大学亥鼻キャンパス及びイイノホール（千代田区）で開催
- ・第3回CU－UCSD共同シンポジウム（2019年2月13-15日）をUCSD内で開催

パンデミックにより、対面でのシンポジウム開催は中断しているが、2023年からの再開に向けて準備が始まっている。

d. 国際交流

若手育成及び国民との科学・技術対話を促進する取り組みとして、1) 連携大学院のPh.Dコースの学生やInternship高校生に対する研究指導、2) サンディエゴ在住の日本人高校生を対象とした研究紹介や大学紹介を兼ねた出前授業、3) サンディエゴ在住の日本人小学生に科学の楽しさを伝える科学教室、を行った。

第3項 マヒドン大学

千葉大学は、2000年以降、タイのマヒドン大学と教育・研究交流を活発化させてきた。2000年4月には、千葉大学薬学部とマヒドン大学薬学部・大学院の間で交流協定を締結し、2008年10月に大学間交流協定を締結、2009年3月には千葉大学園芸学研究科とマヒドン大学理学部・大学院のダブルディグリープログラムを開始、2010年3月には国際交流センターを開設、2015年1月には千葉大学薬学部とマヒドン大学薬学部・大学院のダブルディグリープログラムを開始している。

これらを背景に、タイおよび東南アジア諸国連合（ASEAN）地域の研究・教育交流を更に発展させることを目的として、千葉大学はマヒドン大学インターナショナルカレッジ（MUIC）内に「千葉大学バンコク・キャンパス」を開設し、2017年9月19日に開所式を行った。開所式は、千葉大学徳久剛史学長の挨拶で始まり、在タイ日本国大使館の広報文化部長、日本学術振興会バンコク研究連絡センター、千葉銀行バンコク駐在員事務所などからのご来賓の皆様にご挨拶いただいた。またマヒドン大学Banchong Mahaisavariya学長のご挨拶に続き、千葉大学高等教育研究機構の織田雄一教授より、千葉大学とマヒドン大学およびタイ国内協定校との交流の歴史、今後のバンコク・キャンパスの役割や活動について説明を行った。レセプションでは、MUICのPhitaya Charupoonphol学部長による乾杯後、マヒドン大学、MUIC関係者、タイの大学間交流協定校関係者、千葉大学海外同窓生、MUIC短期留学プログラ



写真1-2-6-6
千葉大学バンコク・キャンパスの所在するマヒドン大学インターナショナルカレッジ (MUIC)

ムに参加中の千葉大学学生等、およそ100名が出席し、本学学生による千葉大学キャンパス紹介および小澤弘明副学長の挨拶がなされた。

千葉大学は、上記の諸団体をはじめ、タイと関わりを持つ皆様と現地で協力しつつ、

バンコク・キャンパスを全学的な国際教育の拠点とするとともに、このキャンパスを起点として、タイ及びASEAN地域における主要な研究機関との国際共同研究推進を目指している。また、現地での留学に関する広報や相談、千葉大学タイ校友会の活動および国際共同研究活動にも活用していく予定である。

千葉大学バンコク・キャンパスを拠点の1つとした具体的な活動内容としては、短期留学プログラム（英語初学者のためのBoot Program、演劇を通して社会課題を学ぶActing Global、法政経学部の国際フィールドスタディなど）を毎年開催し、多くの学生がマヒドン大学を訪問している。また本学では共同研究や交換留学等でマヒドン大学の学生を受け入れており、相互の学生交流が活発に進んでいる。また、植物工場を利用したプロジェクトも進めている。学生だけでなく、役員や教職員も相互に訪問を重ね、様々な分野での交流の可能性を模索している。



写真1-2-6-7 千葉大学バンコク・キャンパスの様子

2019年には本学の大学院国際学術研究院の石戸光教授がMUICの客員教授、MUICのDr. Alexander Nanniが本学の特命教授に任命され、両大学の交流のサポート体制がより強固なものとなった。また千葉大学70周年記念シンポジウムにはDr. Alexander Nanniを招へいし、講演を行った。2019年末より顕在化した新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大（コロナ禍）の状況下でも、オンラインを中心とした講義を行っている。また、2022年には、共同でオンライン職員研修も実施された。



写真1-2-6-8
2017年の千葉大学タイキャン
パス開所式にて



写真1-2-6-9
2017年の千葉大学タイキャン
パス開所式にて



写真1-2-6-10
2019年の客員教授・特命教授任命式

上述のコロナ禍により、バンコク・キャンパスにおける活動は2022年の半ば頃まで中断されてしまったが、その後2023年2月からは実渡航による短期留学プログラムを再開し、併せて、全学的に開始された「全員留学」のプログラムも新規で実施するに至った。

上記以外も含めて、千葉大学バンコク・キャンパスにおいては、グローバルキャンパスの1つとして教育・研究・スタッフ間の交流活動を展開しており、タイで活動を行う日本の諸大学間のネットワークへの参画もしている。タイは海外キャンパスの中でも、日本の千葉大学との距離が比較的短く（飛行機で片道6時間ほど）、また時差は2時間のため、コストを抑えた形での実渡航プログラムが実施可能となっているほか、オンラインを活用したプログラムにおいても、学生同士の交流が講義時間内にリアルタイムで行いやすい。さらにタイは観光大国で、ASEANのメンバーでもあり、第二言語としての英語によるコミュニケーションが身近な生活でも感じられる国である。そしてタイにおける工業団地では、日系企業を含めた多くの企業がグローバルな経済活動の一翼を担っている。

まさにダイナミックでグローバルな社会を実感できることが、タイにグローバルキャンパスを設置することの最大のメリットであろう。さらに今後はマヒドン大学インターナショナルカレッジのタイ人学生の皆さん（大変優秀な方々が多く、将来のビジネスパートナーにもなりうる）も交えた混在教育がグローバルキャンパスの一環として展開され、コロナ禍後にはデジタル技術も併用しながら、千葉大学の学生が「グローバル人材」として巣立っていくことを期待したい。